

和歌山県名匠

やまもと ぐん じ 山 本 軍 治

経歴及び業績

中辺路町に生まれ、京都市の庄司大雅堂で、約7年間表具の技術を習う。その後、田辺市の橋本竹泉堂に職人として入り、技能の研鑽に努め、卓越した技能を身につけ、昭和26年に独立して、いわゆる“反り”をなくした折畳式色紙掛軸の考案によって業界に貢献するとともに、昭和43年から昭和56年まで県表具組合副理事長、同紀南支部長として後進技能者の指導に尽くし、現在に至る。掛軸表装に関しては、本紙と裏地の配色、使い方、寸法の割り出し、糊の使い方、和紙の選び方、下軸の付け具合等に優れた技能を身につけられている。

特に古文書修復については、業界における第一人者といわれている。

軸物を専門とし、代表的なものに、湯浅町の深専寺の「釈迦涅槃」、粉河寺の寺宝「切支丹通行手形控帳」の修復があり、特に切支丹の通行手形控帳は、虫喰がひどく永年月の虫の分泌物により1枚の板の如く固まり、縫針、竹べら、ピンセットのみで困難な修復作業を行なった。また昭和54年より県立図書館の委託を受けて、本居宣長その他の古文書の修復も行った。

また、昭和54年に和歌山県技能賞、昭和61年には卓越した技能者の労働大臣表彰（現代の名工）を受賞されている。



職 種 表具師